

寒川町下水道ストックマネジメント計画（第Ⅲ期）

寒川町都市建設部下水道課

策定 令和8年 3月

① スtockマネジメント実施の基本方針

【状態監視保全】

下水道の根幹施設であり、目視調査等による状態監視が可能である管きよ、マンホール、マンホールふたは状態監視保全とした。また、年に1度の点検を実施しているマンホールポンプ、樋門・樋管についても状態監視保全とした。

※状態監視保全とは、「施設・設備の劣化状況や動作状況の確認を行い、その状態に応じて対策を行う管理方法をいう。

【時間計画保全】

圧送管は、現時点では自然流下管のように管内の状態を評価する調査の実施が困難である。そのため、時間計画保全に位置づけ、目標耐用年数経過時点で交換する。

※時間計画保全とは、「施設・設備の特性に応じて予め定めた周期（目標耐用年数等）により対策を行う管理方法をいう。

【事後保全】

対象施設なし

※事後保全とは、「施設・設備の異状の兆候（機能低下等）や故障の発生後に対策を行う管理方法をいう。

② 施設管理区分の設定

1) 状態監視保全施設

【管路施設】（汚水・雨水）：管きよ、マンホール、マンホールふた

施設名称	点検・調査頻度	改築の判断基準	備考
管きよ（本管） マンホール マンホール蓋	1回/5年の頻度で点検を実施、 必要に応じて調査を実施。	健全度Ⅱ、Ⅲで改築を実施。	腐食環境下
	1回/27年の頻度で調査を実施。	健全度Ⅱ、Ⅲで改築を実施。	一般環境下 布設後20年経過管

【ポンプ施設】（汚水・雨水）：マンホールポンプ、排水ポンプ

施設名称	点検・調査頻度	改築の判断基準	備考
ポンプ設備	1年/回の頻度で点検を実施 点検の状況に応じて調査を実施	健全度Ⅱ、Ⅲで改築 を実施。	

【ゲート設備】：樋門・樋管

施設名称	点検・調査頻度	改築の判断基準	備考
ゲート設備※	1年/回の頻度で点検を実施 点検の状況に応じて調査を実施	健全度Ⅱ、Ⅲで改築 を実施。	

※：ゲート設備は、ゲート、開閉装置を含めている。

2) 時間計画保全施設

【管路施設】（汚水）

施設名称	目標耐用年数	備考
圧送管	標準耐用年数の50年とする	

3) 主要な施設の管理区分を事後保全とする場合の理由

【管きよ施設】

管きよ

事後保全対応に位置付けない。

【汚水・雨水ポンプ施設】

ポンプ本体

事後保全対応に位置付けない。

③ 改築実施計画

1) 計画期間

令和8年度 ～ 令和12年度

2) 個別施設の改築計画

【管路施設】

処理区・排水区 の名称	合流・汚水・ 雨水の別	対象施設	布設 年度	供用 年数	対象 数量	概算費用 (百万円)	備考
左 52-1 処理分区	汚水 雨水	管きよ	1975年～ 2004年	21年 ～41年	462.16m	101.73	①腐食 ⑦耐震化
左 52-1 処理分区	汚水 雨水	マンホー ルふた	1975年～ 2023年	2年 ～41年	300箇所	151.44	①腐食 ⑩蓋浮上 防止
合計					462.16m 300箇所	253.17	

※管路施設の改築等は、改築シナリオからの予定値であり、全量改築を前提とした事業量である。
今後、調査、設計を行うことで、対策不要、修繕対応になる施設もあり、事業量は変動する。

④ スtockマネジメントの導入による実施効果

標準耐用年数で全てを改築した単純シナリオの場合と、健全度や目標耐用年数など、リスク評価を考慮した本Stock計画書に基づいて改築を実施した場合とを比較してコスト縮減額を算出した。

概ねのコスト縮減額	試算の対象時期
合計 : 約 6.8 億円/年	概ね 100 年間